令和7年
1月

北文化小劇場　催し物ご案内

開催日	催事名	開演	終演	問い合わせ先	入場料
8日 （水）	**第10回 尺八の日演奏会**	10:00	未定	尺八の日演奏会 実行委員会 大重 090-8679-2672	無料
11日 （土）	**あの頃の歌コンサート ～出会いと別れのうた～** チケット取扱い	14:00	15:30	北文化小劇場 052-910-3366	全自由席 一般 1500円 友の会/障がい者等1300円 北区民割1300円 ※未就学児入場不可
13日 （月・祝）	**kasagiフルート教室発表会 コンセール2025**	12:00	15:30	笠置陽子 (FAX 733-1066)	無料

チケット取扱い…北文化小劇場にてチケット取扱い

＊非公開の催し物や練習でのご利用等のため掲載のない催し物もございます。
＊催し物の時間、内容等が変更になることがございます。

北文化小劇場　施設利用のご案内

演奏会や舞踊会など幅広い公演にご利用いただけますので、お気軽にお問合せください。






楽屋

練習室

ホール見学＆各種相談承ります！

◆客席数　297席（椅子席237・桝席60）
◆舞　台　間口14.5m　高さ6.0m　奥行8.2m
◆楽　屋　2室
◆練習室　1室（45㎡）
◆駐車場　37台（図書館共用）

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団［北文化小劇場］

＼ホームページはこちら／

お問い合わせ
TEL 052-910-3366　FAX 052-910-3367

アクセス
名古屋市北区志賀町4丁目60-31
地下鉄名城線「黒川」下車4番出口から北へ徒歩12分

名古屋市北文化小劇場情報紙

北文化小劇場だより

2025
1月



Topics

●出演者インタビュー
　芸どころ名古屋公演　第二回 遊音の会 <加藤条山>
●伝統文化アドバイザーエッセイ

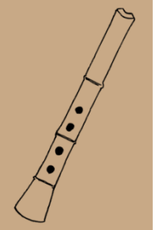
総合建設業 株式会社 原田工務店 052-901-3210
KAWAI NAGOYA ☎:052-962-3939
清酒 金虎 ☎052-981-3960
お料理・仕出し・うなぎ 魚鉄 ☎052-911-1211

いま話題の人をご紹介

スポット ライト
Spot Light

芸どころ名古屋公演
邦楽の名手たちによる豪華な演奏を―

邦楽を見たことのない方も気軽に楽しめる演奏会。
伝統芸能アドバイザーでもある加藤条山先生にお話をお伺いしました。





都山流尺八竹琳軒大師範 加藤条山 先生 プロフィール

1967年	10歳より尺八を始める。
1975年～	都山流愛知県支部主催本曲コンクールに於いて4年連続1位入賞
1979年	都山流本曲コンクール全国大会に於いて優勝、文部大臣奨励賞受賞。 1989～1991年も同賞を受賞。
2005年	名古屋市芸術奨励賞　受賞。
現　在	都山流尺八楽会　講士　検定員

―どんな活動をされていますか。

箏曲の演奏会、コンサート、リサイタル等の助演、また(公財)都山流尺八楽会の全国各地で行われる講習会等へ指導に出かけています。

―活動を始めたきっかけは何でしょうか。

大学を卒業してプロの演奏家を目指して努力を重ね、一応夢が叶った感じです。

―これまでの出演の感想を教えください。

北文化小劇場に限らず、舞台はいつも緊張感を持って立たせていただいております。

―今回の公演の見どころを教えてください。

老若男女がポピュラーから三曲合奏まで、息を合わせて楽しそうに演奏しているところを見ていただけたらと思います。

―来場者の方へメッセージをお願いします！

邦楽というと敷居が高い感じがするのですが、どうぞお気軽に足をお運びいただけますと嬉しく思います。

公演情報

芸どころ名古屋公演
条山会・泰山会・雅楽志優会 会員 会友による **第二回　箏・尺八　遊音の会**

日　時	令和7年2月23日(日) 14:00開演 (13:30開場)
演奏曲目	さんさんさくら、信濃路、牡丹、合竹の賦、ブルーレジェンド　ほか
ゲストステージ	和楽器四重奏　おりじん
賛助出演	藤田雅幸
入　場	入場無料(要整理券)　※整理券は北文化小劇場窓口の他、出演者よりお求めください。

快適以上を、世の中へ。
TOENEC

広告募集中！
1枠50,000円／年(HPバナー掲載有)
ご希望の方は北文化小劇場まで
TEL 052-910-3366

第22回

伝統文化アドバイザー 連載エッセイ

端唄って何？其の五



端唄 華房流華の会 家元
華房　小真先生

江戸期より伝わる端唄・小唄を中心とし、名古屋の伝統芸能「正調名古屋甚句」「熱田神戸節」「都々逸」の演奏、指導、伝承に力を入れ、舞台・テレビ・ラジオに数多く演奏出演、また大学での実演指導・講義も行っている。
名古屋市を中心に稽古場を設け、親しみやすく伝承・保存するために指導。
また、公共・教育機関の公演やワークショップで若い後進の育成にも力を入れている。

正月と聞くと、やはり心があらたまります。しめ縄を玄関に飾り、鏡餅を備えたり、お節や、また大掃除をしたりと一年を無事に過ごせるようにと、新しい年を迎える準備をされる方は、令和の時代でも多いのではないかと思います。年中行事により季節を感じ、生活の節目を整えるのは、日本古来の伝統が生活の一部として今に息づいているといえるのではないでしょうか。

江戸時代の元旦は、旧暦で現在の2月中旬位でした。
元旦は、庶民は家でゆっくり過ごしてまさに寝正月。事始め、初売り、また出初め式なども2日からでした。江戸八百八町48組、本所深川16組の火消しが、揃い半纏で集まる様子は、まさに江戸の華！各町内の火消しがハシゴ乗りを披露し、観客も正月早々大賑わいの様子が歌川広重の浮世絵に残されています。
また、浮世絵だけでなく、端唄「初出見よとて」にもその出初め式、鰭背(いなせ)な火消し、纏(まと)いもちの様子が歌詞になっております。

この「初出見よとて」は、実は「桜みよとて」という端唄の替え唄です。
1815～20年頃、名優3代目坂東三津五郎（坂東流を開いた）が大阪での出演時、得意の演目中にこの桜みよとてを唄い、三都に評判を呼んだそうです。端唄は流行歌ですので、評判の舞台で名優が唄う新曲を、当時の人は老若男女こぞって歌ったのではないでしょうか。
その大流行りした桜みよとてを明治25年1月の歌舞伎座で、河竹黙阿弥作「梯子乗り出初め晴業」の歌舞伎の中で5代目菊五郎にあてて黙阿弥が作詞したのが「初出見よとて」です。
黙阿弥の鰭背な歌詞が1810年頃の流行り唄、端唄「桜みよとて」に、新しい衣を着せて、ブラッシュアップ。
現代でも愛唱される端唄の一曲となりました。

「初出見よとて」
初で見よとて　出をかけて先ず
頭取の伊達姿、良い道具持ち
粋なポンプ組　えーずんとたてたる
梯子乗り　腹亀じゃ　吹き流し
逆さ大の字　ぶらぶら谷覗き

※腹亀、吹き出し、逆さ大の字は、梯子乗りの技、型です。

過去の連載エッセイを
劇場HPにて公開中！



事業レポート

１０/３０（水）「バリアフリー映画上映会」

見えない・見えにくい方や、聞こえない・聞こえにくい方も楽しんでいただけるよう、日本語の字幕や音声ガイドが付いた映画の上映会を行いました。今回は映画「天国からのエール」を上演。音が伝えている情報を文字にして表示する[バリアフリー字幕]や、人物の動きなどをセリフや効果音の合間に音声で説明する[音声ガイド]を実施して、ご来場いただいた方々に楽しんでいただきました。
来場者アンケートからは「ナレーション付きの映画ははじめてでしたが、分かりやすくてびっくりしました」「手話サークルに入っています。邦画でも字幕がついていて、次回はろう者の人も誘ってきたいと思いました」「今後も続けてください」などのご感想をいただきました。

